

医薬品の安定供給のために、 流通コストを適正に転嫁できる 仕組みの導入を

(一社) 日本医薬品卸売業連合会 会長

宮田 浩美

ヒルトップ・セミナーにご参加いただき、誠にありがとうございます。会員構成員企業の皆様には、日頃より医薬品の安定供給を通じて社会的使命を果たしていただいております。また昨年1年間、流通改善に真摯に取り組んでいただいた結果、平均乖離率は過去最小の5.2%になりました。皆様のご尽力の賜物であり、改めて、感謝を申し上げます。

さて、5月の通常総会では重点課題として、①コンプライアンスの徹底、②流通改善を通じた市場環境の整備、③持続的な安定供給に向けた流通体制の構築、④医薬流通産業の形成とデジタルの活用、⑤セルフメディケーションの推進、⑥広報及び教育研修等の6つの課題を挙げました。その中で何より重要なのが「流通改善ガイドライン」の遵守です。皆様の努力で圧縮した乖離率5.2%はなんとしても維持・継続しなければなりません。我々はもう後戻りができない状態にあると私は考えており、間違いなくこの1年が踏ん張りどころです。来年は、薬価制度改革に向けて大きな変化の起こる1年になります。引き続き「流通改善ガイドライン」の遵守をお願いいたします。

一方、業界環境をみると、6月に政府から「骨太の方針」が発表されましたが、その中に「持続可能な流通の仕組みの検討」が盛り込まれています。これは、今後の医薬品の安定供給に向けた仕組みづくりを行っていくということであり、その意味でも今年は極めて重要な1年になります。

また、7月9日の中医協の意見陳述で、私は需給調整の業務負荷など、医薬品卸を取り巻く環境が極めて厳しく、医薬品の仕入原価や物価がかなり高騰している中で卸の自助努力だけではコストの



吸収が難しいため、コスト増加を適切に価格転嫁する仕組みづくりが必要であると訴えました。今後10年、20年と医薬品卸売業が発展していくための流通の仕組みづくりの入口が今年であります。引き続き、中間年の薬価改定の廃止を訴えつつ、医薬品の安定供給のために流通コストを適正に転嫁できる仕組みの導入を、国や国会議員の先生方に訴えていきます。7月20日の参議院議員選挙の結果を受け政局は見通せませんが、医薬品を安定供給し、必要な人に薬を届けるという我々の社会的使命に変わりはありません。ぜひ、そこは強く訴えていきたいと思っております。

相当速いスピードで世の中が変わってきていますが、我々にとっても変わることができるチャンスです。ぜひ、皆様と一緒に新しい社会的な価値を創出するために、卸連合会としても様々な変革にチャレンジしていきたいと考えています。

今回のヒルトップ・セミナーのテーマは「日本の医療と医薬流通産業の新たな役割」で、厚生労働省の森審議官、ファルメディコ社の狭間社長、インテグリティ・ヘルスケアの武藤会長、クレコンリサーチ&コンサルティングの木村社長にご講演いただきます。変化を見据えた上での課題や展望について示唆に富んだお話が聞けると期待しており、皆様の事業や企業の発展につなげていただければと願っています。